

＜日商簿記1級商業簿記ミニテスト19＞会計上の変更・誤謬の訂正

次の取引の仕訳を行いなさい。

＜問題1＞

期中に売掛金 1,500 円が貸倒れた際、全額貸倒損失として処理していたが、このうち当期の売掛金は 800 円だった。なお過去 5 年間の貸倒実績率の平均値を用いて貸倒引当金を設定している (2,000 円) が、前期末は決算直前の貸倒を実積率の算定に反映していなかったため、本来 3.0% とするところを 2.5% で設定いたことが判明しており、過去の誤謬の訂正を行う。なお、当期は売掛金の期末残高 (100,000 円) に対して 3.2% で貸倒引当金を設定する。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①誤謬の訂正				
②当期の修正				
③当期の設定				

＜問題2＞

期末商品棚卸高は、帳簿棚卸数量 130 個、実地棚卸数量 125 個であり、期末商品の正味売却価額は、@86 円である。期末商品の単価は各自確認すること。棚卸減耗費と商品評価損は売上原価 (仕入勘定を使用) に算入すること。なお、期末商品棚卸高の総平均法による評価単価は 89 円、先入先出法による評価単価は 90 円である。

期末商品の評価方法については、前期まで総平均法によっていたが、当期首から、先入先出法に変更する。なお、期首商品の棚卸資産の平均単価による評価額は 10,200 円、先入先出法による評価額は 10,500 円である。

借方科目	金額	貸方科目	金額